

令和4年度宮城県ストップ温暖化賞 受賞者一覧

1 宮城県ストップ温暖化大賞（1件）

受賞者 【取組タイトル】	概要
株式会社深松組 【「地中熱回収システム」導入による省エネ対策】	<p>○当該団体は、集団移転跡地において営業を開始したアクアイグニス仙台（温泉やレストラン事業を中心とした複合商業施設）に、地産地消型の省エネ設備として「複数熱回収システム」を導入した。4種の熱（地中熱、排水熱、排ガス熱、排気熱）を回収し、温泉の加温や施設内の床暖房の熱源として利用しており、東北初の試みとして先導性を有する取組である。</p> <p>○敷地内の農業ハウスにおいて、太陽熱蓄熱システム並びに温泉排熱及び地中熱を活用し、化石燃料を使用しないイチゴ栽培に産学官連携で取組むなど、取組の継続性も有している。</p> <p>○その他、SDGsの目標達成に向け、店舗で地産地消、フードロス削減等に取り組むほか、高校生向けにSDGsに関するワークショップを開催するなど、普及啓発にも取り組んでいる。</p> <p>○県民の注目度も高い施設であることから、多方面への波及性が期待される。</p>

2 宮城県ストップ温暖化賞（3件）

受賞者名 【取組タイトル】	概要
株式会社オイルプラントナトリ 【廃食油を活用した脱炭素に向けた取組】	<p>○当該団体は、環境ISO取得を機に、廃食油の回収によるBDF（バイオディーゼル燃料）の自社生産に着手し、社用車等の燃料を軽油からBDFに転換した。自社で廃食油の回収からBDFの製造・利用までを行っており、製造したBDFは公共バスなどで活用されている。</p> <p>○BDF製造時に出る二次廃棄物も全て再利用し、廃棄物ゼロを実現している。</p> <p>○名取市が一般家庭からの廃食油を地域のスーパー等に集め、地域の社会福祉法人が回収、当該団体がBDFを製造し、当該BDFが地域で活用されるという地域循環が生まれている。</p> <p>○平成16年度からの取組であり、継続性に優れているほか、工場の消費電力を全てバイオ燃料由来の電力に置き換える計画があるなど、今後の波及性・発展性も期待される。</p>

受賞者名 【取組タイトル】	概要
<p>宮城県地球温暖化防止活動推進員コミュニケーターチーム</p> <p>【環境出前講話による地球温暖化防止の普及啓発活動】</p>	<p>○当該団体は、平成 30 年度に宮城県地球温暖化防止活動推進員 5 名により結成されたチームである。</p> <p>○身近な行動を地球温暖化対策につなげてもらうことを目的として、生活に密着したテーマでの出前講話の実施や、環境イベントへの参加等により、広く普及啓発に取り組んでいる。</p> <p>○「食品ロス」から「水循環」まで、地球温暖化に関する題材を幅広く取り扱うとともに、「小中学生向け」と「高校生・大人向け」の資料をそれぞれ作成するなど、創意工夫を図っている。</p> <p>○ストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）や各種団体との連携により、脱炭素社会の実現に向けた県民の機運醸成に向けて、当該団体の普及啓発活動による波及性が期待される。</p>
<p>ヤマト運輸株式会社 新宮城主 管支店</p> <p>【ヤマト運輸株式会社 新宮城主 管支店 SDGs 推進委員会】</p>	<p>○当該団体は、令和 4 年 4 月に「SDGs 推進委員会」を立ち上げ、ゴミ削減や省エネ等に取り組んでいる。</p> <p>○紙や廃プラスチックの分別・回収によるリサイクル率の向上や普及啓発、営業所へのラベルレス飲料の導入のほか、照明の LED 化、照明や給湯器の使用時間の取り決めなど、企業全体での取組に留まらない、支店独自の創意工夫がみられる。</p> <p>○効率の良い集配ルート、事前通知等による再配達削減、伝票や不在連絡票等の紙資源の削減、ドライアイスの使用量抑制にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>○関連する 1,600 名ほどの従業員一人一人が地球温暖化対策に取り組むことで、他の支店や関連企業、各家庭等への幅広い波及性が期待される。</p>

※敬称略，五十音順